

■ 日時 令和5年2月7日（火）午前10時00分～12時00分

■ 場所 宇都宮市役所 14階 14A会議室

■ 議事 (1) 「第5次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画／宇都宮市成年後見制度利用促進計画」に係る提言書（案）について

■ 出席者

【委員】福田智恵委員，手塚英和委員，麦倉仁巳委員，釧持幸子委員，桶田正信委員，興野憲史委員，浜野修委員，木村由美子委員，長谷川万由美委員，岩井俊宗委員，（10名）

【事務局】[保健福祉部] 参事（地域共生担当）

[保健福祉総務課] 課長，課長補佐，地域共生企画グループ係長，職員2名
[高齢福祉課] 相談支援グループ係長

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 無

■ 会議経過

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 「第5次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画／宇都宮市成年後見制度利用促進計画」に係る提言書（案）について

4 その他

5 閉 会

《発言要旨》

発言者	内容
<p>3 議事 (1) 長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> まず、基本目標1の「福祉のこころをはぐくむ人づくり」について、事務局の説明に対しての質問、また何か意見を出していただきたい。
<p>興野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本提言書に、精神障がいについて述べられていない点が気になる。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 精神障がいに関する個別の課題については、社会福祉審議会の障がい者福祉専門専門分科会での議論になるのではないかと。
<p>手塚委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な表現にはなっていないが、基本施策(1)「福祉のこころの醸成」に記載の「年代や性別、障がいの有無・種別などの特性に偏らず、様々な人との交流を促進することにより、相互理解を深めることが重要である。」の部分で読み込めるのではないかと。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回、若い世代に活動してもらおう取組が盛り込まれたが、この点についてはいかがか。
<p>岩井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの議論の中でも、若者世代に対しての期待が高いということを実感している。若者もこれからの社会の担い手でもあるため、地域福祉や支え合いの理解・意欲を高めていくことは、大変重要であると考え。提言書に記載の表現に対して異論はないが、一方で、若者への期待が過度になっていることが心配である。50代・60代も、社会を担っているという自覚が必要であると日々現場で感じている。やさしさをはぐくむ心について、大人が出来上がっているという前提自体も違うのではないかと考える。
<p>福田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 仕事をしていると、仕事をしているから地域には関わらないというような、当事者意識が欠けているようなところがあると感じている。「自分ごと」や「我が事」などの表現が国の計画の中でも使われているため、「自分ごと」や「我が事」を盛り込むことを提案する。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相互理解を深めるというところは大変必要なことだと思うが、一方でピアサポート、当事者の方々が悩みを打ち明けるような場の提供や醸成が必要ではないかと。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、基本施策(2)「福祉教育の推進と福祉に関する人材の育成」の2項目の冒頭に、「地域の課題を自分ごととして捉える」というような文章を加えるのはいかがか。一方的に活動する人の活動時間

	<p>を見つけてもらうということではなく、自分の問題として捉えることが今後ますます重要な視点であると考えている。表現については、少し精査することとし、事務局いかがか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分ごと」や「我が事」の記載について、再度整理する。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「当事者参加」について提言書に入っていないことが気になっていた。基本目標2の「安心して参加できる『居場所』づくり」のところで、加えられれば良いのではないか。 ・ 続いて、基本目標2「共に支え合う地域づくり」に移ることとする。 ・ 改めて考えると、老人クラブは老人関係のピアサポートであり、地域作りの土台となる自治会活動や老人会などということで、基本施策1の2つ目に、老人会の記載があるが、「同じ課題を抱える者同士、安心して集い、支え合う（ピアサポート）の場づくりを意識する必要がある」という表現を入れてみてはいかがか。
手塚委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ すでに、認知症の家族を支えるなど福祉の中にも、いくつもいわゆるピアサポートというかピアカウンセリングがあるため、そういった表現がもう少し出てくると良いのではないか。
桶田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、老人クラブや地域で一番課題になっているのは、居場所がないことであり、私自身も居場所づくりに取り組んでいる。いじめやひきこもり、8050問題など、現実の問題が覆いかぶさってきているように感じる。これを地域の居場所作りの中で、当事者の方とどのようにコミュニケーションをとっていくのかについても、大きな課題であると捉えている。 ・ 行政の縦割りではなく、予防のネットワークで、私たちも地域で、自治会や老人会の中で、民生委員の方、それから福祉協力員の方などと、地域でネットワークを横に繋げていかないと、地域が形成されないような大きな課題となっていると感じており、踏み込んで取り組んでいただきたい。
麦倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域づくりは、一部の人の役割とするものではなく、誰もが主体的に関わることが望まれる」という記載があるが、例えば、障がい者本人からすれば、逆にありがた迷惑の部分もある。障がい者に限らず、高齢者などに対しても、できるだけ受け身の地域福祉ではなく、一緒にやりましょうと促すことが、これからのまちづくり・地域作りに必

<p>手塚委員</p>	<p>要になるのではないかと。記載について、工夫してはいかがかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 我々の現場においても、高齢者に限らず、障がい者の方、子ども、全ての世代の方に「孤立」がキーワードとして出てきており、居場所になってくるのか、参加者に関わってくるのか、それとも横のネットワークに関わってくるものなのかなど、それぞれの分野において、施策に対する意見として書ききれないのではないかと。全体的な文言で、新しい「孤立」という問題に対して、今回の5年間の中では、特に力を入れて市として対応していくというように記載してはどうか。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「孤立」をひとつの独立したものではなく、キーワードとして入れていくということであれば、例えば、基本施策（1）に「孤立」を入れても良いのではないかと。
<p>木村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりに係るリーダーについて、女性参画が叫ばれている中で、例えば自治会長や老人会長など、地域のリーダーの中に女性がすごく少ない。地域づくりをこれから考えた場合に、女性が参画しやすい観点や女性リーダーを育成していくという観点も必要であると考えている。 孤立しやすい人については、高齢者に加え、単身者も該当するのではないかと。特に、男性が会社を辞めて地域に戻ってきたときに、地域の中で孤立するというケースは多く、そういった方たちに焦点を当てていくことも重要であると感じている。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定の場に当事者が参加するというような視点について、提言に入れることについて、いかがかと。
<p>福田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大切なことであるため、入れていただきたい。 先ほど老人会など団体の話題があったが、事務局のようなことを担ってくれる人がいれば、自分たちは活動したいという声も地域の中で聞く。地域の中で、そういったことを担う方がいるのであれば、多様性も含めて行政でも仕組みを考えていく時代に入っているように感じている。 「孤立」については、働けない若年者が一定数存在しており、就職はしたけれどもそこで長く続かなかった、その後うまくいっていないなどという問題をよく聞く。働けない若年者たち、あるいは病気で長い間休まなければならない方、精神的にうつ病を患ってしまって、なかなか復帰ができない方などは、社会の中に壁があるように感じら

	<p>れ、集まれる場所がないと聞く。若年者で孤立しがちな方々の居場所がないと聞くため、8050を防ぐ意味でもそういうところが積極的に発信ができれば良い。</p>
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> 不登校や8050については、非常に大きな課題であり、課題という意味で、どこかに記載しておく必要があるのではないかと。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 計画の中には入っているが、提言書の中で盛り込めたら盛り込むこととしたい。
桶田委員	<ul style="list-style-type: none"> 不登校や引きこもり等については、問題が現場では深刻な状況になっており、提言の中に入れるというよりも、プロジェクトのようなものを作り、新たに活動できるようなシステムをお願いしたい。
岩井委員	<ul style="list-style-type: none"> 個人に関しては、世代や所属、障がいの有無、性差など関係なく、皆が参画できることが望ましい。一方で団体においては、新しい参画を選べるように、団体自身も変わらなくてはならないところが多々あるように感じる。この団体が変わる力をどう支えるかということは、重要であると捉えている。そういう意味では、役員の構成を会則のルールからも変えてしまうということも団体を変える力であり、若者が事務局を担うというようなことも一つ団体が変わっていく力だと思ふ。 既存の形をこれまでと同様に毎回お願いするという形だけでは社会の変化が激しく、なかなか対応する側の方が追いつけてないというような現状も考えられる。文言としては、地域づくりの何か一部の人と文章のところがあるが、その下に「地域づくりを推進する団体においては、新しい参画を得るための団体が変化する支援も大切である」というような一文を提案させていただく。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 団体支援について、「地域福祉活動計画」には入っているか。「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」が連携して取り組むことが望ましい。
手塚委員	<ul style="list-style-type: none"> 行政において、団体に対する支援を行っている部署があると思ふ。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> NPOなどの団体を支援する機関もあるため、連携しながら取り組みたい。
興野委員	<ul style="list-style-type: none"> 「孤独」について、精神障がい者の居場所となっている障がい者生

<p>長谷川会長</p>	<p>活支援センターの予算が縮小されたが、居場所事業は精神障がい者にとって大切な施策であるため、障がい者生活支援センターへの予算拡充を望む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本目標2については、「孤立」というキーワードどこかに入れるということ、「ピアサポート」について、施策の1か2に入れるということ、それから、参加者だけではなく、団体の意思決定が多様な人によって担われるようにという観点については、提言書の中に出ていた方がよいのではないかということであった。 続いて、基本目標3「安心して暮らせる福祉の基盤づくり」について、意見を伺う。
<p>浜野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市では地域包括支援センターなどに共生型の相談窓口を設置する動きがあるが、問題は、ワンストップで次の対応ができるところに相談の伝達ができるかという点である。技量が問われるため、地域包括支援センターにおいても、訓練をする必要があると考えている。 地域包括支援センターについては、相談事業の円滑な実施、社会福祉協議会や自治会など様々な組織との連携に加え、孤立にある人に居場所を提供するなどの音頭取りも行う必要があると考える。 地域包括支援センターは、今回の計画の中で相当関与していくものと捉えている。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「40代、50代のひきこもりなどの制度の狭間の問題」と記載があるが、ヤングケアラーなどひきこもり以外の例示を加えるか、ひきこもりの長期化としてはどうか。
<p>福田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもりになる要因は様々あるかと思うが、学生の頃からの不登校に起因するもの、親の介護で結局仕事を辞めて介護に就く、自身の疾患によって仕事を退職せざるを得ないような状況から社会復帰にまで至らないというものなど、若年層に関しての支援がなかなか充実していなかった部分があり、そのようなところが表現できたら良いと感じた。 「協働による支援を行う包括的な相談支援体制整備」については、地域共生社会の実現に向け、公設的に相談体制や支援の充実を図っていくというような表現を国がしているため、「公設」という表現がどこかに入れば良いと感じた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で活動する団体が疲弊していると同っており、権利擁護の部分に人材確保・育成とあるが、新たな制度に向け、団体が疲弊しないような形をとれるよう提言したい。 ・ 全体としては、これからはコミュニティの再生、関係性の再生が必要であると感じている。今、家族が核家族化し、一世代前の家族機能が脆弱になっていると感じており、新たな「疑似家族」のようなコミュニティを地域の中で再生していくのは、この次の計画なのではないか。地域を面的に捉え、例えば居場所の中で、疑似家族の体験ができ、そこから繋がって、何かあったときに手助けをお互いにできるというようなコミュニティの再生の後押しをこの後の5年間でできるような計画だと良い。 ・ これまで縦割りであったが、「地域共生社会」は範囲が広く、保健福祉部で担う枠組みを超えておいて、市の組織改編にも提言をしても良いのではないか。
木村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制度の狭間の問題の一つが、大人の発達障がいであると考えて。ひきこもりなる要因として、空気が読めない、人間関係の構築が円滑にできないなど、今の大人が子どもの頃からそういうものを抱えていても、大人になってから発達障がいに気づくというケースが多いように感じている。そういった当事者の支援ができる体制整備が望ましいと考えており、発達障がいにも焦点を当ててはどうか。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障がいについては、分類上は精神障がいの一部であり、制度は存在しており、制度の狭間への記載については、事務局と検討したい。
浜野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支えあいについて、今回の地域福祉計画は壮大な構想となっており、意識の醸成に向け、市民にどのように伝達して推進していくのかを考える必要がある。
手塚委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援体制が機能するためには、相談支援体制そのものの充実も必要だが、相談をする相手方の生活が実際に成り立っていくためには、様々な機関との結びつきに繋がっていく必要がある。相談支援体制の整備に重点が置かれているように見えてしまうため、具体的に機関に繋がり、生活の改善に結びつくことが重要であることを付け加えることを提言する。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続いて、全体に関する意見を出していただきたい。

手塚委員	<ul style="list-style-type: none"> この提言書の取りまとめの仕組みが、特に個別的な施策に対する意見が中心になっているため、当分科会としての課題認識や今後取り組むべきことを記載するところがあると、分科会として専門性が表現されるのではないか。分科会で議論されたことが、今後5年間の宇都宮市の福祉の基盤を作る重要なポイントとして、2, 3まとまると良い。提言のポイントを問われた際、一つ一つ述べなくてはならないような形になっているため、今回の提言のポイントはこういうことで、具体的にはこうであるという記載にした方が、分科会の専門性が発揮されると考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 整理の仕方については、事務局預かりとさせていただき、会長と検討したい。
岩井委員	<ul style="list-style-type: none"> 提言書の「当事者や次代を担う若い世代の意見を取り入れながら、施策事業を推進することが必要である」という記載について、「当事者」という言葉が漠然としているため、「生きづらさを抱える当事者」という表記にした方が、そういった方々の参画を大切にしているというメッセージが伝えられるのではないか。 『『市民』『地域』『公共』がそれぞれの役割を認識し』という記載については、例えば、「それぞれの役割と特性を認識し、社会に合った変化をしながら主体的に取り組む」とするなど、我々の役割も変わっていく必要があるということも意識することが望ましいと考える。役割の固定化ではなく、市民、地域、公共の意識が変わっていくことを支えていけるよう、推進の部分に表記いただきたい。
麦倉委員	<ul style="list-style-type: none"> 「心のバリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくり」という記載があるが、国の「ユニバーサルデザイン2020行動計画」においては、ユニバーサルデザインの中に、ハード部分とソフトの部分のバリアフリーは包含して記載されている。重複しているため、文言の整理をすることが望ましい。
釧持委員	<ul style="list-style-type: none"> 私たち民生委員・児童委員は、直接課題を抱えた人たちと関わる仕事であるため、私たちが活動しやすいように変えていただけたら良い。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 提言書の修正点については、事務局と会長で確認の上、職務代理者である浜野委員と相談しながら、最終的な文言を調整し、全体会で報告したい。

<p>福田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各部署の連携を進める上で、個人情報の保護が障壁になっていると考える。例えば、ヤングケアラーの場合、学校がその情報を地域や事業所に出すかどうかという問題があるとともに、自治会や民生委員も一定のガードがかかっているかと思う。どのように連携を取っていくのか、行政側も個人情報の開示をどのようにしていくことが望ましいか、課題であると捉えている。今後、計画の推進にあたっては、個人情報の保護について、行政側が現場を担う人たちに、しっかり知らせていただきたい。
<p>手塚委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画の守備範囲に関連して、緊急時における地域福祉の基盤づくりは入らないのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害時要援護者支援制度については、提言書では触れていないが、概要版の重点事業に記載があるとおり、施策としては盛り込まれている。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提言書については、事務局と会長に一任いただいてよろしいか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 異議なし
<p>4 その他</p>	
<p>福田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画を進めていく上での指標について、「幸せ度」のようなものを指標にしている自治体も見受けられるようになってきたため、どこかの時点での指標に市民の「幸せ度」ということの調査とそれに合わせた計画の推進状況の確認とができれば良いと思う。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事務局から何かあるか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨日までパブリックコメントを実施しており、まとめたものを配布した。応募者数は6名であり、件数としては11件であった。